

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和3年3月18日（木）

2 確認箇所

K1南、K1北及びK2タンクエリア

3 確認項目

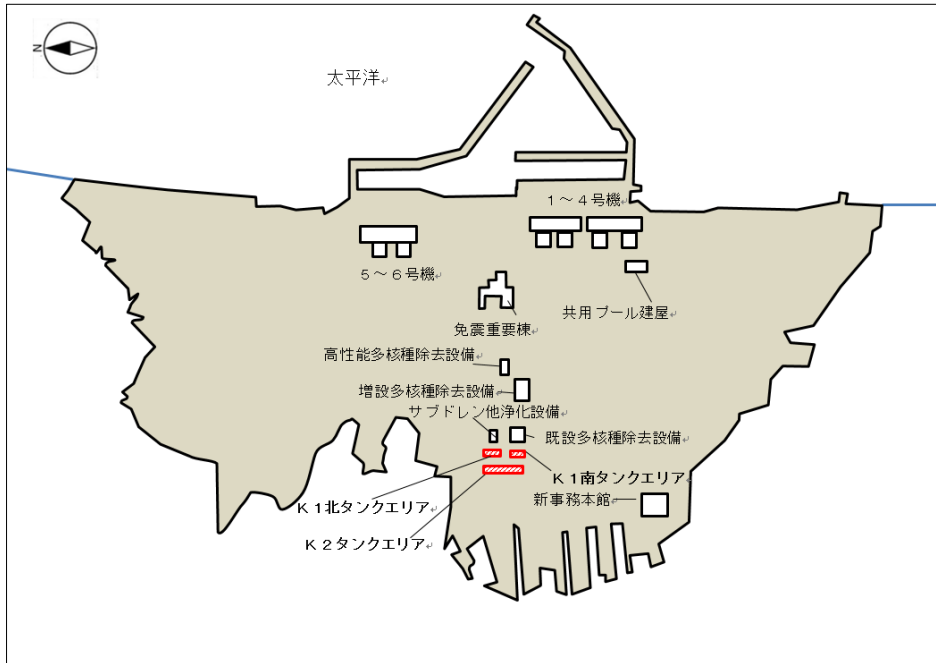
- (1) ストロンチウム処理水貯留タンクの再利用に向けた取組状況
- (2) 物揚場排水路の回収水移送状況

4 確認結果の概要

- (1) ストロンチウム処理水貯留タンクの再利用に向けた取組状況について
K1南及びK2タンクエリアでは、処理水の保管容量の確保を目的として、多核種除去設備で処理する前のストロンチウム処理水を貯留していたタンクについて、連結管の交換及び内部洗浄などを行い再利用する計画が進められていることから状況を確認した。（図1、写真1）

なお、現場確認時、作業は実施されていなかったが、以下の状況が確認された。

- ・ K1南タンクエリアには10基のタンクが設置されており、タンクを接続している連結管の保温材が取り外されていた。（写真2）
- ・ K2タンクエリアでは、洗浄作業等の対象となっているタンク7基のうち1基について、サイドマンホール部に前室が設けられており、近傍には高圧洗浄機が置かれていた。（写真3）
- ・ 東京電力によれば、K1南タンクエリアについては、4月から洗浄を開始し、7月に完了予定とのことである。また、K2タンクエリアについては、現在までに対象7基中5基の洗浄が完了したとのことであった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)

K1南、K1北及びK2タンクエリアの外観 (南東側から撮影)



(写真2)

K1南タンクエリア
保温材が取り外された連結管の状況



(写真3-1)
K2タンクエリア
前室の設置状況



(写真3-2)
前室内部の状況



(写真3-3)
近傍の高圧洗浄機の状況

(2) 物揚場排水路の回収水移送状況について

K1北及びK2タンクエリアの内堰内には、令和3年3月2日に「高警報」が発生してゲートを閉止した際の物揚場排水路からの回収水が一時貯留されており、前回(3月10日)までにプロセス主建屋で処理するために吸引車による移送作業が進められていたことから状況を確認した。

- ・現場確認時、内堰内の水の移送作業は行われていなかったが、両タンクエリアの内堰内には、水深数cmの水の滞留が確認された。(写真4)
- ・両タンクエリアには、物揚場排水路の水を回収した際に使用した耐圧型ホースが引き続き据え付けられていた。(写真5)
- ・東京電力によれば、回収水の移送作業は3月11日までに完了しているとのことから、滞留水はその後降った雨水であるとのことであった。



(写真4-1)
K1北タンクエリア内堰入口付近



(写真4-2)
K2タンクエリア東側付近



(写真5-1)
K1北タンクエリア西側付近
(物揚場排水路の水の回収用耐圧型
ホース据え付け状況)



(写真5-2)
K2タンクエリア南西側付近
(同左)

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。